日刊建設通信新聞（2022 年 12 月 21 日付　3 面掲載）

【オリコンサルと奈良・田原本町ら　道路維持管理に ECI　全国初の包括民間委託】

オリコンサルと奈良・田原本町ら

道路維持管理にECI

全国初の包括民間委託

左から野崎秀則社長、森章浩田原本町長、山口隆司教授

オリエンタルコンサルタンツと大阪公立大学は16日、市町村のインフラ維持管理の在り方について、奈良県田原本町と京都府和束町での研究結果を報告した。ECI（施工予定技術者事前協議）方式などを導入し、包括的に事業を実施することで、工期短縮や品質向上、コスト削減などの効果が発現した。国土交通省が考えるインフラを〝群〟として捉える広域的な維持管理の先駆けとも言え、いずれの取り組みも全国で初となる。

田原本町では、ECI方式と全橋梁の点検・設計・施工監理・情報管理までの業務を複数年契約する包括的発注を組み合わせた「道路ストック包括的民間委託」について、実際の事業を進めながら研究した。

同町には計363橋の橋梁があり、うち39橋が健全度Ⅲ判定を受けている。これに対し、同町まちづくり建設課には建設係と調査管理係の職員が5人しかいない。このため、事後保全型の維持管理も追い付いていない。包括的民間委託の効果は、一貫した設計思想による品質向上、打ち合わせ回数の削減による発注者負担の軽減などが認められた。また、地元施工会社の育成にもつながっている。

2024年度からは全国で初となる舗装・道路付属物の維持管理を含めた道路ストックとしての包括的民間委託に踏み切る予定だ。

和束町には1953年の南山城水害を受けて災害復旧事業として架橋された橋が9橋あり、約70年が経過している。老朽化が進んでおり、更新の時期を迎えている。このうち、祝橋の架け替え事業には、ECI方式と現場技術業務を組み合わせた「ハイブリッド型包括的民間委託」を導入した。

事業では測量・調査、設計、工事、初期点検、情報管理、現場技術業務を実施。過去の門前橋架け替えには8年の工期がかかったが、祝橋の事業では工期が2・5年まで短縮された。今後は町内の石寺橋にも同方式を適用して架け替える予定だ。

両事業ではECI方式の導入により、工期短縮、設計・施工者・発注者の三者会議による迅速な意思決定、コスト縮減などが確認された。また、3次元点群データの取得や出来形管理を含めたDX（デジタルトランスフォーメーション）にも取り組んだ。